

おひるごはんセミナー2020/07/28feat.

関西8大学オンラインピッチイベント「#KSPGP」報告会

<概要>

当法人は、起業家人材の育成事業の一環として、起業家人材を対象に、昼食時に外部講師による情報提供を行い、知識や人脈を連携するセミナー「おひるごはんセミナー 2020/07/28 feat. 関西8大学オンラインピッチイベント『#KSPGP』報告会」を、以下の内容の通り本年7月28日に実施いたしました。

- ・ 日程：2020年7月28日（火）
- ・ 場所：オンライン（zoomでの開催）
- ・ 講師：大阪大学人間科学研究科 島藤杏奈氏
- ・ ファシリテーター：GONENGO LLC xin suzuki氏

<主な内容>

【#KSPGPとは？】

#KSPGPとは、KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix の略称。7月26日にYouTube Liveを使って開催され、関西8大学の学内ピッチ優勝者が登壇。今年は123名が申込み、100名の学生が参加/挑戦している。

例年はオフラインで開催され、KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 連絡協議会主催、総務省近畿総合通信局後援のもと行われている。

【最優秀賞受賞の紹介：レモネードキッズ】

今年度は、子供の個性を伸ばすビジネス「レモネードキッズ」が最優秀賞を受賞した。制作は大阪大学大学院の島藤杏奈氏、島藤純奈氏、久保田凌介氏の3名であり、“子供たちが自分の価値を社会に提供して生きる”を理念に掲げ、日本の国力や世界を牽引する力を育て、日本の人材バンクとしての機能を発揮し得るこの事業内容について、スーパーキッズの発掘・囲い込みと育成・マッチング・成功例・マネタイズの観点から紹介を頂いた。

①スーパーキッズの発掘

エジソンやスティーブ・ジョブズなどの著名人がそうであるように、ネガティブに捉えれば発達障害、個性に着目すればスーパーキッズと呼べるような子どもたちがいる。

海外ではスーパーキッズの教育や活躍の支援取り組みが発達しているが、日本の学校や教育ではその多くが埋もれてしまっている現状を受け、スーパーキッズ発掘のためのビジネス教育を展開している。

具体的には、子どもたちがレモネード店の経営者になりきり、事業計画の作成、融資交渉、販売、返済・利益創出を通して、問題解決能力・数学的思考・創造力を養う。これまで当事業に参加した200名のうち、20名が優れた数学的思考力や創造力を示し、スーパーキッズ

の存在が確認出来ている。

現在、スーパーキッズの思考を実験的にエビデンス収集するプログラムを研究開発しており、VR技術の応用も考えられている。

②スーパーキッズの囲い込みと育成

イベントだけでは限界があるため、教育プラットフォームも開発している。ビジネスインベーターだけでなく、サイエンスやスポーツ芸術など様々な分野で秀でたスーパーキッズを、アプリケーションを通して囲い込む。

単なるコミュニティ醸成ではなく、スーパーキッズの動画配信や、それに対する学識者からのコメント、得意分野の推定、独自ポイントの流通も計画しており、地域通貨についてはS MBC本部からも支援の提案を受けている。

③マッチング

同プラットフォームでは、スーパーキッズの個性に合った大学・研究所・企業の推薦やマッチングも行い、子どもたちの出口戦略をデザインしている。

④成功例

成功のシナリオを次の通りにイメージしている。

- ・12歳でアプリを通して配信したヒルの生態調査の動画がヒット
- ・14歳で理化学研究所から引き抜き
- ・17歳で新型コロナウイルスに対するヒルの抗体の有用性を発見、ハーバードから入学オファー
- ・19歳でハーバード発ベンチャー創業

⑤マネタイズ

- ・アプリの広告費
- ・人材データ・人材派遣・人材発掘ノウハウによる収益

【イベントを振り返って】

<xin suzuki氏>

イベントから二日経ちますが、反響や現在の心境は。

<島藤杏奈氏>

SNSを通してお祝いのメッセージや応援の言葉をいただいている。何より、大学の先生が喜んでくださって、それがとても嬉しい。

<xin suzuki氏>

学内ピッチ・KSPGP出場の経緯は？

<島藤杏奈氏>

学内の企業家志望者が集まる「大阪大学イノベーターズクラブ」開催の「阪大ピッチ」を勝ち抜き、KSPGPに出場させて頂いた。

<xin suzuki氏>

通常、ピッチイベントはオフラインですが、今回は5分間の動画にまとめるという形式となった。今まで動画にまとめるという経験はあったのか。

<島藤杏奈氏>

動画の事前提出は初めてで、ライブ感の演出に苦労した。当初は、動画内のワイプでプレゼンの様子も見せる予定だったが、原稿を読む際に緊張し固まってしまったため、全てアフレコにした。

また、オーディエンスの注意を分散させないため、映像はプレゼンテーションのみ、声は音声のみで収録し、声も抑揚をつけるように練習を重ねた。

<xin suzuki氏>

今後のチームの目標や方向性は

<島藤杏奈氏>

今はまだ法人化前の状態だが、銀行から借入れなどをして法人化していく予定。まずはアプリのプラットフォーム開発を検討している。グーグルスプレッドシートを用いてアプリを開発しており、ユーザーがアカウント作成時に入力するアンケートから得意分野を推定し、アプリから外部サイトに飛んで該当する研究分野の年間予算なども確認できる。

他にも、大学の研究室がカスタマイズされ、レコメンドされる仕組みも開発している。同じく企業のレコメンドも表示することで、広告料の確保も検討している。アプリは、年内のリリースを検討している。

【参加者からの質問・コメント】

- ・小学生の息子がおり、非常に興味がある。ぜひうちの学校で授業してほしい。
- ・過去にどのようなイベントを実施したのか。
- ・子供であれば誰でも参加・活用できるのか。

<島藤杏奈氏>

大阪大学をはじめとして、慶應義塾大学の大学院経営管理研究科や企業オフィスなどでもイベントを開催してきた。レモネード販売に関するゲームもあり、内容は、

- 1) 市場の詳細は伝えず、500円所有する富豪、250円の中流、150円の庶民が存在するという設定のもと、レモネードの売り上げの予測と予算の計画を立てる
- 2) 予測に基づいて銀行で資金調達し、レモネードの材料や紙コップ等を仕入れる
- 3) 販売と返済を行い、最後に利益計算をする、というもの。

ダイバーシティの子どもたちをいかに発掘するかというのが理念であるため、子どもたちは誰でも参加無料としている。マネタイズのためにアプリケーションの開発を考え、発掘データを資金源にできるようにした。

- ・法人化の話があったが、学内ベンチャーとして法人化する想定なのか。

<島藤杏奈氏>

大阪大学発のベンチャーとして企業予定。株式発行で苦勞している学生企業家をよく見るため、合同会社の立上げを検討している。

・スーパーキッズ候補の発掘はどのように行うのか。本人や保護者からの自己申告あるいは何らかの母集団に働きかけるのか。

・アプリプラットフォームやVRの話が出たが、現時点でどこまで実現しているのか。

<島藤杏奈氏>

現時点では、レモネード販売のイベントでの行動観察を通して、スーパーキッズ、つまりイノベーターとしての素質や「ギフトッド」の可能性のある子どもたちを発掘している。

また、学校の成績では測れない子どもたちの個性や得意なことの評価手法について、学研と情報科学研究科での共同研究が10月から開始予定。実験心理学的アプローチが採用され、単なるアンケートではなく、VRを用いた眼球運動を計測やウェアラブルデバイスを用いた生活習慣の計測が検討される。パナソニックから、研究のアウトプットの場を提供して頂くことも決定している。

<xin suzuki氏>

まさにトントン拍子といった感じだが、そういうお話は全て島藤さんが開拓しながら進めているのか。

<島藤杏奈氏>

学内の優秀な学生たちと話す中で見えてくるものもある一方、今回の大会に向けては大学の先生からも多く意見をいただき、その中でブラッシュアップを重ねた。また、経営者である母ともディスカッションを重ねてきた。

・海外展開なども考えているのか。

<島藤杏奈氏>

日本だけでなく、アジアや海外にも家庭の事情や貧困によって埋もれている子どもたちも使えるプラットフォームを提供したいと考えている。アプリだけでは限界があるため、国家ベース、例えば経産省などに連携を求めるということも挑戦になる。

以上